

K* MoPA
清里フォトアートミュージアム
Kiyosato Museum of Photographic Arts

K

30TH

写真の冒険 前衛から未来へ

2025 3/20 / 木・祝 - 6/15 / 日

後期:「写真と肖像 顔から風景へ」会期:2025年7月5日(土) - 10月13日(月・祝)

KMoPA ガーデン

写真の森

エントランスホールパトリ

初代館長 細江英公の写真集

閲覧特設スペース

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545-1222 TEL.0551-48-5599

アクセス: 車にて / 中央自動車道須玉 I.C. または長坂 I.C. より車で約20分

JR / 中央本線「小淵沢駅」にて小海線乗り換え、「清里駅」下車、車で約10分



開館30周年記念展覧会

30th Anniversary Commemorative Exhibition

開館30周年記念展覧会

25人の
U35の
写真

写真の冒険 前衛から未来へ

2025 3/20 / 木・祝 - 6/15 / 日

開館時間: 10:00~17:00 (入館は16:30まで) 休館日: 毎週火曜日 ただし、4/29(火・祝)、5/6(火・祝)は開館
入館料: 一般 800円(600円) 大学生以下無料 ()内は20名様以上の団体料金 家族割引1200円(2~6名様まで)
主催 / 清里フォトアートミュージアム委員会 特別協賛 / 真如苑(社会貢献基金)



ヴィクトル・コエエン《若さを奪われた者たちの肖像(務めと遊び)シリーズより》1999年

Part One: Adventures in Photography: From the Avant-Garde to the Future

KMoPA ガーデン
写真の森

エントランスホールパトリ

初代館長 細江英公の写真集 閲覧特設スペース

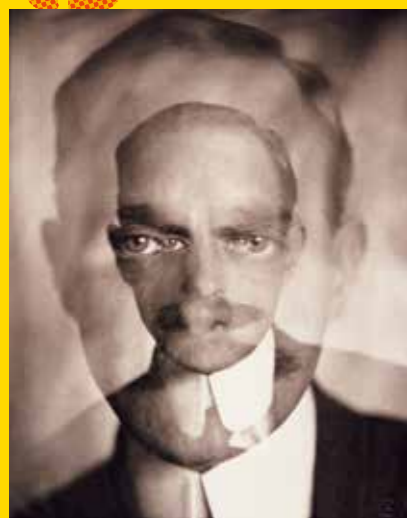
K* MoPA
清里フォトアートミュージアム
Kiyosato Museum of Photographic Arts

開館30周年記念展覧会

清里フォトアートミュージアム(KMoPA)は、今年で30周年を迎えます。開館記念は、若い写真家たちを刺激し、激励することを目的に、日本の戦後を代表する写真家「25人の20代の写真」展からはじまりました。30周年記念ではそのオマージュの意味もこめて、1万点以上に及ぶKMoPAコレクションのなかから「25人のU35(35歳以下)の写真」を新たな視点で厳選し、写真の原点、そしてKMoPAの原点を見直す展覧会を2会期に分けて開催します。前期では写真という新しい技術や視覚を用いた「冒険」。後期(7~10月開催)では写真がそもそも発明されるきっかけともなった「肖像」をテーマにします。写真は人間の視覚や思考を刷新する可能性を秘めています。本展では世界初の抽象写真から、シュルレアリスム、SF写真、コラージュ、多重露光、チェルノブイリ事故で放射線に被爆したフィルムで撮影された写真まで、写真の発明当初から行われてきたさまざまな実験的な作品を紹介します。若さあふれる写真家たちの果敢なチャレンジの軌跡をご覧ください。みなさんも一緒に写真の冒険にでかけませんか。

25人の
U35の
写真

前期 写真の冒険 前衛から未来へ



■左列上から
内藤正敏
《トキドロレン》
1962-63年
アルヴィン・ラングドン・コバーン
《マリウス・デ・ザヤスのヴォートグラフ》
1912年頃
ミハエラ・スプルナー
《Carnival》
2010年

■右列上から
Ryu Ika
《The Second Seeing_Back Stage2》
2020年
小原一真
《Exposure》
2015年

■右下
クラレンス・ジョン・ラフリン
《彼の行方を誰が知る》
1940年
© The Clarence John Laughlin Archive
at the Historic New Orleans Collection

ゲストキュレーター：楠本亜紀 (Landscape)

2025
3/20/木・祝 - 6/15/日

- 1 抽象写真とシュルレアリスム
アルヴィン・ラングドン・コバーン
マヌエル・アルバレス・ブラボ
クラレンス・ジョン・ラフリン
- 2 戦後の挑戦
ジェリー・N. コルズマン
キース・スミス
カール・トス
細江英公
今井壽恵
内藤正敏
今 道子
- 3 YPの作家たち
小林良造
クリストス・クケリス
イ・ジュンヨン
山内 悠
谷田梗歌
田口 昇
ミハエラ・スプルナー
ヴィクトル・コーエン
ピョートル・ズビエルスキ
芽尾キネ
北野 謙
井上麻由美
小原一真
チョン・ミンス
Ryu Ika

Part One: Adventures in Photography: From the Avant-Garde to the Future



初代館長 細江英公

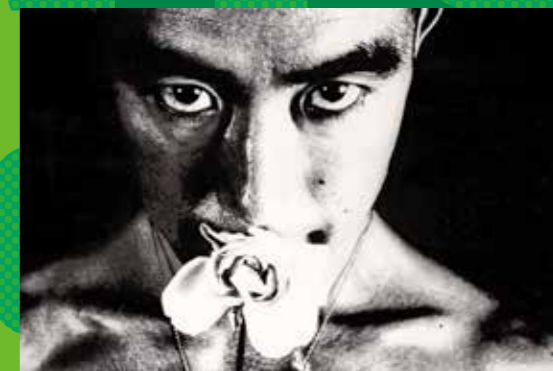
エントランスホールパトリ 初代館長 細江英公の写真集 閲覧特設スペース

2025 3/20/木・祝 - 10/13/月・祝

*ただし、6/16(月) - 7/4(金)は展示入れ替えのため休館

20世紀を代表する世界的写真家の1人であり、1995年7月の清里フォトアートミュージアム開館より初代館長を務めた細江英公。世界の若手写真家を支援する公募・選考・展示・収蔵を行う「ヤング・ポートフォリオ」(YP)を創設・牽引し、後進の育成に情熱を注ぎ続けました。本展では、細江英公館長へのオマージュとして、写真集、著作を自由に閲覧いただけるスペースをご用意いたします。

【細江英公 (HOSOE Eikoh) 略歴】 1933年山形県米沢市に生まれ、東京で育つ。1951年富士フォトコンテスト・学生の部最高賞受賞をきっかけに、写真家を目指す。1959年、東松照明、奈良原一高、川田喜久治らとともに写真家によるセルフ・エージェンシー「VIVO」を結成、戦後写真の転換期における中心的な存在となる。三島由紀夫を被写体とした「薔薇刑」(1963)や、舞踏家・土方巽を被写体とした「鎌鼬」(1969)など、特異な被写体との関係性から紡ぎ出された物語性の高い作品を次々と発表した。一方で国内外での写真教育、パブリック・コレクションの形成等、社会的な活動にも力を注いだ。東京工芸大学名誉教授。1995年より当館館長。2003年、「生涯にわたり写真芸術に多大な貢献をした写真家」として英国王立写真協会より創立150周年記念特別勲章を受賞したほか、2010年、文化功労者。2017年、写真家として初めて生前に旭日重光章を受章した。



細江英公《薔薇刑 作品32》1961年



KMoPAは、八ヶ岳南麓の深い緑と澄んだ大気につつまれた、標高1000メートル地点にあります。開館30周年を記念し、初めて写真による屋外展示「写真の森」を行います。瀬戸正人副館長が、当館の収蔵作品をはじめとする写真作品を選び、緑あふれるKMoPAガーデン内の森に展示します。光と影、そして森を抜ける風のなか、写真はどのように見えてくるのでしょうか。

KMoPA ガーデン 写真の森

2025 3/20/木・祝 - 10/13/月・祝

*ただし、6/16(月) - 7/4(金)は
展示入れ替えのため休館



瀬戸正人副館長

■会期中のトークイベントなど、詳細は当館ウェブサイト kmopa.com にてご確認ください。